

京都府の地震活動

平成 30 年 (2018 年) 2 月

第 31 卷 第 2 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 2
京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度一覧表	・・・ 3
京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度分布図	・・・ 4
【地震一口メモ】長期評価における地震発生確率の更新について	・・・ 5

『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

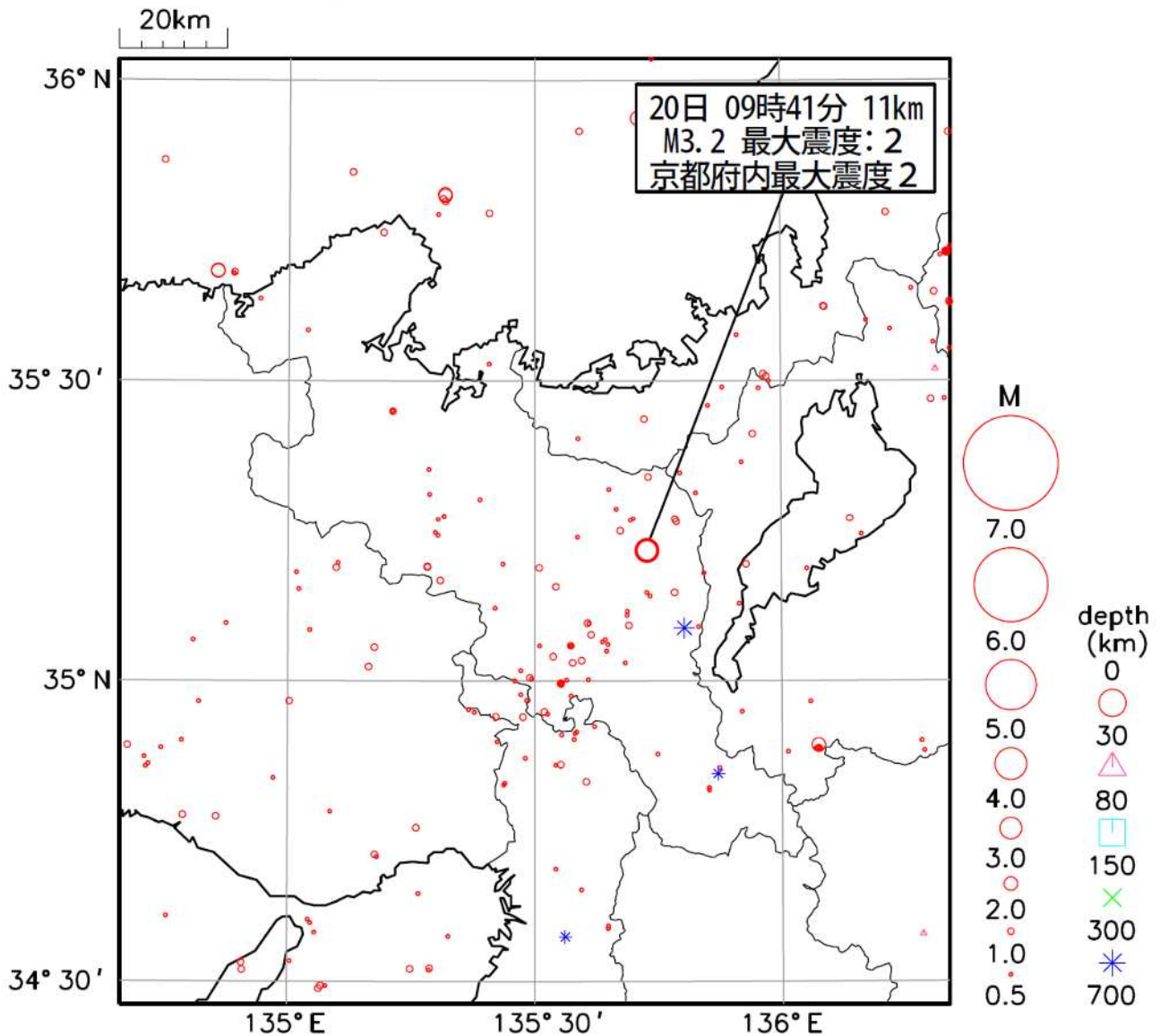
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～700km）

2018 02 01 00:00 - 2018 02 28 24:00

総数：237



- ・震源の深さを表す「」、「」、「x」、「*」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに応じたサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）及び京都府内で震度を観測した地震については、京都府内最大震度を付記。

概況

2月の震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は10回、震度1以上の揺れを観測した地震は1回でした（1月はそれぞれ9回、4回）。

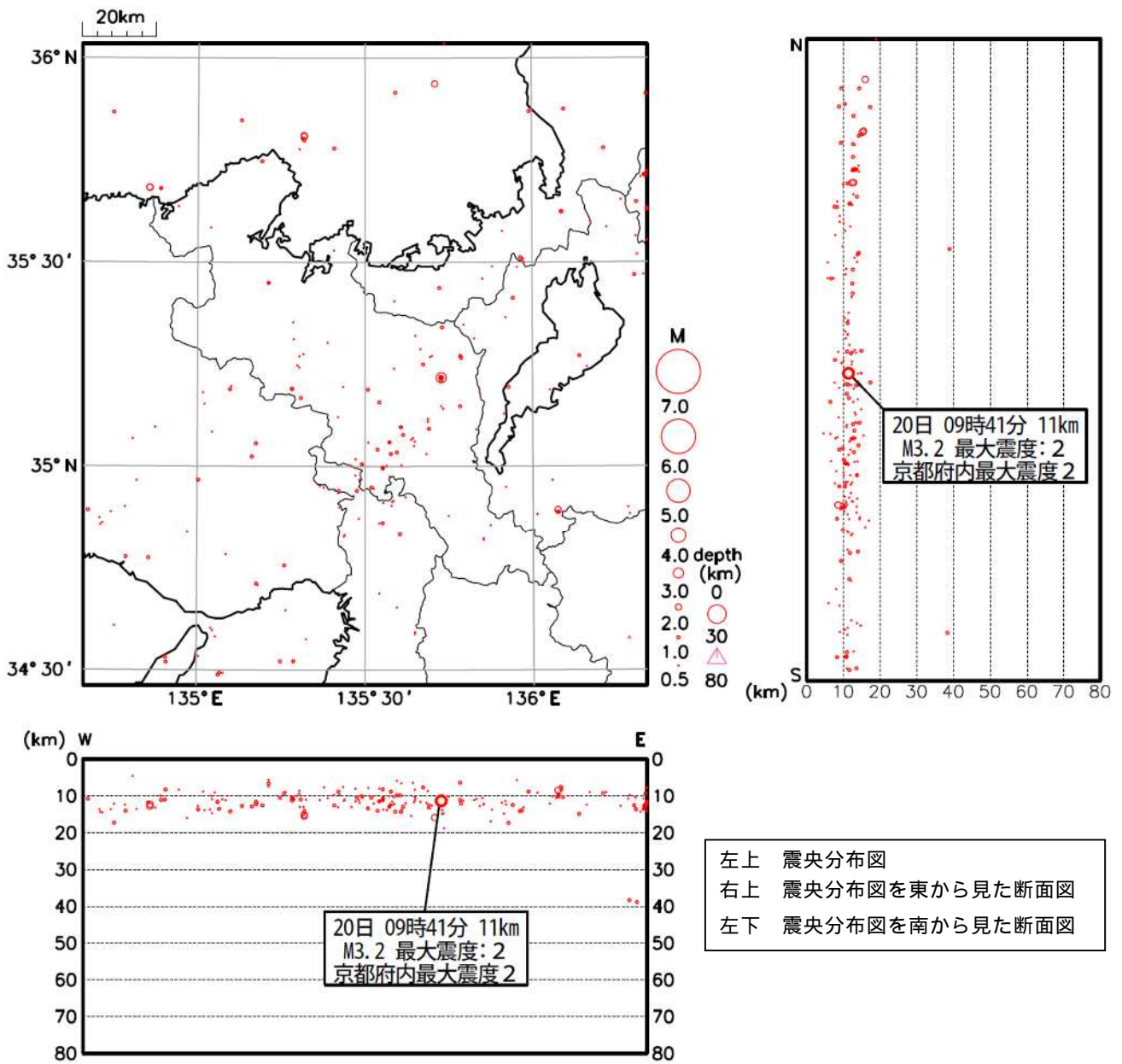
発生した地震のうち、京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回（1月は3回）でした。

20日09時41分 京都府南部の地震（M3.2、深さ11km）により、京都府京都市左京区で震度2を観測したほか、滋賀県、京都府で震度1を観測しました。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2018 02 01 00:00 - 2018 02 28 24:00

総数：234



京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表(2018年2月)

番号	観測日時		震央地名	北緯	東経	深さ	規模
	月日	時分		(度分)	(度分)	(km)	(M)
	2月20日	09:41	京都府南部	35°13.0	135°43.6	11	3.2

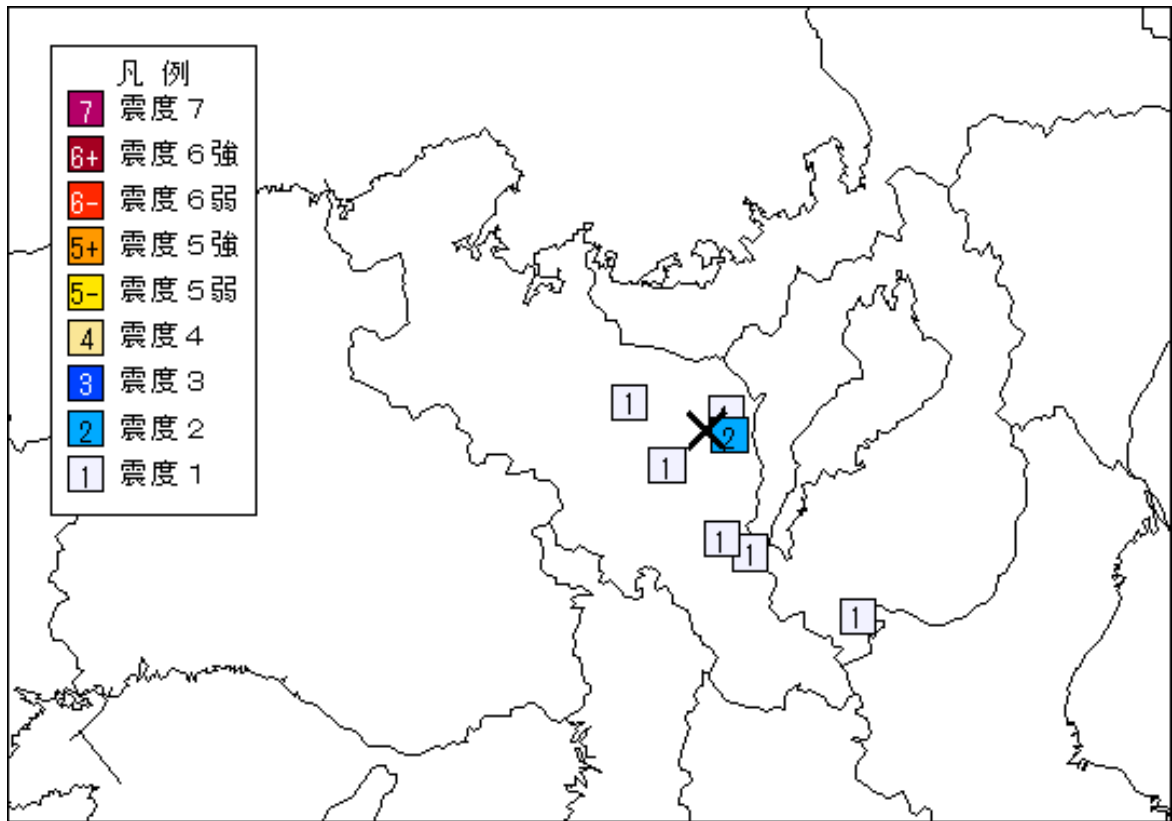
地域	震度観測点	所属	各地の震度
北 部	福知山市内記	気	-
	福知山市長田野町	防	-
	福知山市三和町千束	自	-
	福知山市夜久野町額田	自	-
	福知山市大江町河守	自	-
	舞鶴市下福井	気	-
	舞鶴市浜	防	-
	舞鶴市北吸	自	-
	綾部市若竹町	自	-
	宮津市柳縄手	自	-
	伊根町亀島	防	-
	伊根町日出	自	-
	京丹後市弥栄町吉沢	気	-
	京丹後市久美浜町広瀬	防	-
	京丹後市峰山町	自	-
	京丹後市大宮町	自	-
	京丹後市網野町	自	-
	京丹後市丹後町	自	-
	京丹後市弥栄町溝谷	自	-
	京丹後市久美浜市民局	自	-
与謝野町加悦	自	-	
与謝野町岩滝	自	-	
与謝野町四辻	自	-	
南 部	京都北区紫竹	自	-
	京都北区中川	自	-
	京都上京区藪ノ内町	自	1
	京都上京区今出川御前	自	-
	京都左京区広河原能見町	防	1
	京都左京区田中	自	-
	京都左京区鞍馬	自	-
	京都左京区花脊	自	2
	京都左京区岩倉	自	-
	京都左京区大原	自	-
	京都中京区西ノ京	気	-
	京都中京区河原町御池	自	-
	京都東山区清水	自	-
	京都下京区河原町塩小路	自	-
	京都南区西九条	自	-
	京都右京区京北周山町	自	1
	京都右京区太秦	自	-

地域	震度観測点	所属	各地の震度
南 部	京都右京区嵯峨	自	-
	京都右京区嵯峨嵯原	自	-
	京都伏見区竹田	自	-
	京都伏見区醍醐	自	-
	京都伏見区向島	自	-
	京都伏見区淀	自	-
	京都伏見区久我	自	-
	京都山科区安朱川向町	防	1
	京都山科区西野	自	-
	京都西京区醍醐	自	-
	京都西京区大枝	自	-
	宇治市宇治琵琶	気	-
	宇治市折居台	防	-
	亀岡市安町	気	-
	亀岡市余部町	防	-
	城陽市寺田	自	-
	向日市寺戸町	自	-
	長岡京市開田	自	-
	八幡市八幡	自	-
	大山崎町円明寺	自	-
	久御山町田井	自	-
	京田辺市田辺	自	-
	井手町井手	自	-
	宇治田原町荒木	自	-
	笠置町笠置	自	-
	和束町釜塚	自	-
	精華町南稲八妻	自	-
	南山城村北大河原	自	-
	京丹波町坂原	気	-
	京丹波町蒲生	自	-
	京丹波町橋爪	自	-
	京丹波町本庄	自	-
南丹市美山町島	自	1	
南丹市園部町小桜町	自	-	
南丹市八木町八木	自	-	
南丹市日吉町保野田	自	-	
木津川市山城町上狛	自	-	
木津川市加茂町里	自	-	
木津川市木津	自	-	

注1：所属のうち、「気」は「気象庁」、「防」は「防災科学技術研究所」、「自」は「自治体」を示しています。

注2：表 数字は、2月に京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震番号を表しています。

京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度分布図（観測点別）



2月20日 09時41分 京都府南部の地震（M3.2、深さ11km）

【地震一口メモ】

長期評価における地震発生確率の更新について

地震調査研究推進本部(事務局:文部科学省)では、地震の規模や地震が発生する確率を予測した「長期評価」を行っています。長期評価における地震発生確率の算定には、想定された地震が発生しない限り、発生確率が時間の経過とともに増加するモデルが用いられています。地震調査研究推進本部では、毎年はじめにその年の1月1日を基準日として算定された地震発生確率を公表しています。

平成30年1月1日を基準日とした地震発生確率は以下の表のとおり、2月9日に公表されています。

京都府周辺の主な活断層及び海溝型地震(南海トラフ)の長期評価結果

活断層

断層帯名 (起震断層/活動区間)	長期評価で予想した 地震規模(マグニ チュード)	活断層における相 対的評価	地震発生確率(注1)			地震後経過率	平均活動間隔
			30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
木津川断層帯	7.3程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.007-0.04	約4,000年-25,000年 1854年伊賀上野地震
三方・花折断層帯 (三方断層帯)	7.2程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.09	約3,800年-6,300年 1662年の地震
三方・花折断層帯 (花折断層帯/北部)	7.2程度	Xランク	不明(注2)	不明(注2)	不明(注2)	不明(注2)	不明 1662年の地震
三方・花折断層帯 (花折断層帯/中南部)	7.3程度	A*ランク	ほぼ0%~0.6%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	0.2-0.7	4,200年-6,500年 2,800年前-6世紀
山田断層帯 (主部)	7.4程度	Xランク	不明(注2)	不明(注2)	不明(注2)	不明(注2)	不明 約3,300年前以前
山田断層帯 (郷村断層帯)	7.4程度 もしくはそれ以上	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.006-0.009	約10,000年-15,000年 1927年北丹後地震
奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	S*ランク	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~7%	ほぼ0%~10%	0.2-2.2	約5,000年 約11,000年前-1,200年前
三峠・京都西山断層帯 (上林川断層)	7.2程度	Xランク	不明(注2)	不明(注2)	不明(注2)	不明(注2)	不明 不明
三峠・京都西山断層帯 (三峠断層)	7.2程度	Aランク	0.4%~0.6%	0.7%~1%	1%~2%	不明	5,000年-7,000年程度 3世紀以前
三峠・京都西山断層帯 (京都西山断層帯)	7.5程度	A*ランク	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~3%	0.3-0.7	約3,500年-5,600年 約2,400年前-2世紀
有馬-高槻断層帯	7.5程度 (7.5±0.5)	Zランク	ほぼ0%~ 0.03%	ほぼ0%~ 0.08%	ほぼ0%~ 0.4%	0.2-0.4	1,000年-2,000年程度 1596年慶長伏見地震

地震発生可能性を表すランクについて

- Sランク(高い): 30年以内の地震発生確率が3%以上
- Aランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が0.1~3%
- Zランク: 30年以内の地震発生確率が0.1%未満
- Xランク: 地震発生確率が不明
(すぐに地震が起こることが否定できない)

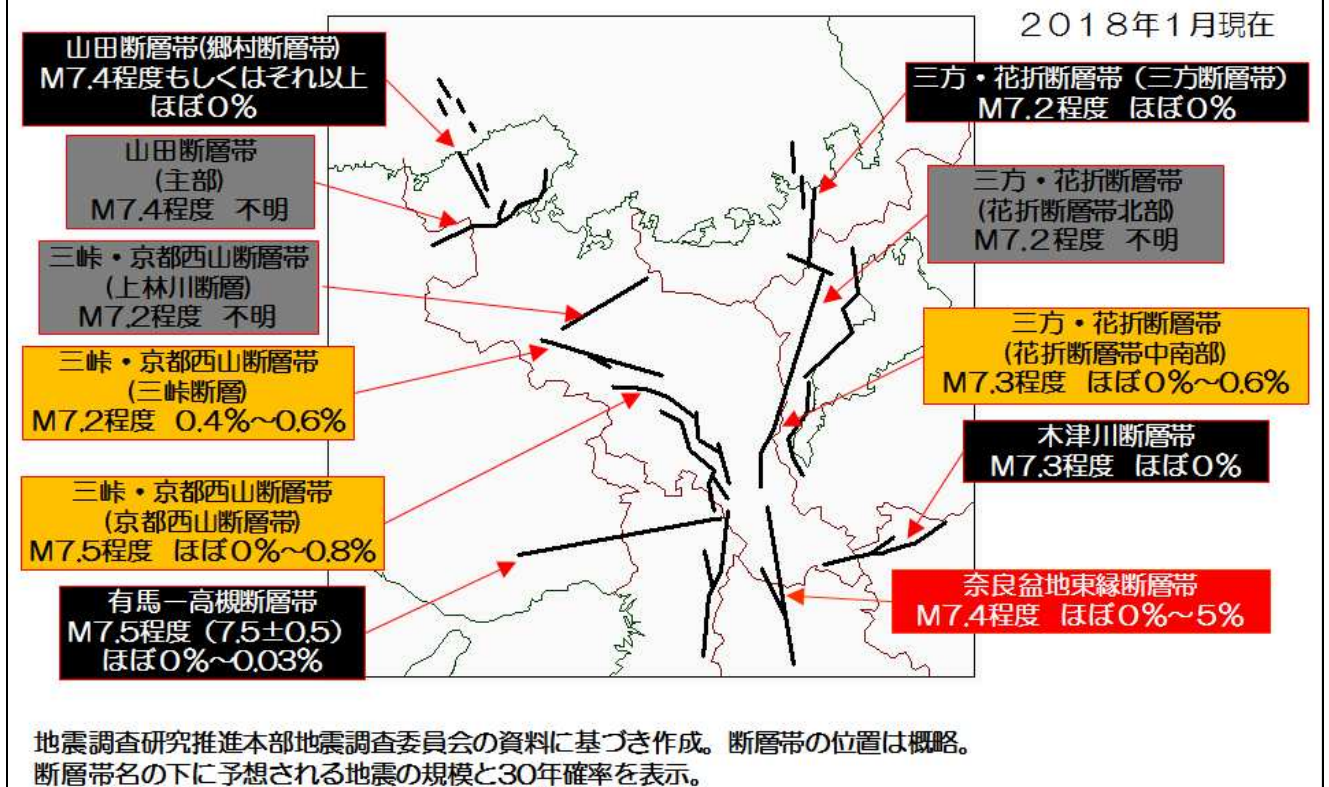
地震後経過率が0.7以上である活断層は、ランクに*を付記する。

※ 地震後経過率とは、現時点の地震発生切迫度を示す数字です。1に近づくと、次の地震がいつ起きてもおかしくない状態と言えます。



(出典 気象庁 冊子「活断層の地震に備える-陸域の浅い地震-」近畿地方版)

京都府周辺の主な活断層



海溝型地震（南海トラフ）

対象海域	長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	地震発生確率			地震後経過率	平均活動間隔
		10年以内	30年以内	50年以内		最新活動時期
南海トラフ	M8~9クラス	30%程度	70~80%	90%もしくはそれ以上	0.82	次回までの標準的な値 88.2年 72.0年前

注1：確率は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、0.001%未満の確率値を表す。

注2：平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。

活断層及び海溝型地震の長期評価結果の詳細については、以下の地震調査研究推進本部のホームページを確認してください。 http://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/